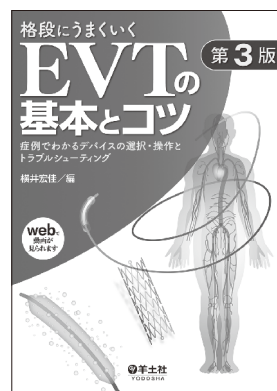


格段にうまく EVT の基本とコツ 第 3 版

症例でわかるデバイスの選択・操作とトラブルシューティング



評者 横井良明（岸和田徳洲会病院 循環器内科）

日本における末梢血管治療の進歩は著しい。いまや世界トップレベルといっても過言ではない。これらの集大成といえるのが本書と考えられる。編者の横井宏佳先生はその広い人脈を生かして、わが国におけるこの分野のトップエキスパートを集めて編纂されたことがこの本を意義あるものになっている。たださすがに初版から 12 年の年月が経ち、多くの分野で新しい知見もありこのたび大幅に改訂されている。

下肢動脈の領域では基本的な治療適応として血管内治療とバイパス術が記載されており、治療の際には必ず押さえておくべきポイントで、熟読すべき点と言える。また、今回の改訂では新しくなったデバイスが詳細に記載されている。年々変化するものであるが、日本で使用できる機材がすべて網羅されており一読していただきたい。下肢動脈の治療ではテクニックが詳細に述べられている。わが国独自の方法もあり大変役立つが、それぞれの技量で用いるべきであろう。また治療の際には思わぬ結果を招くこともあり、トラブルシューティングの稿は治療施行前に読んでおいていただきたい。

末梢血管治療における画像診断の利用は、わが国が最も進んでいる。体表面エコーを用いた治療、

IVUS を用いた病変評価、ワイヤーの同定などきわめて大切であり、今後の治療の方向性を考えるとぜひとも一読の必要がある。また画像診断の項では OFDI や血管内視鏡などの稿があり、今後の血管病変の精細な評価が可能になり、治療前後の検討がより詳細になされる時代がくると思われる。

今回の第 3 版でも、下肢動脈以外の領域も含まれている。日常的に治療をする機会は多くないが、そのような際には治療適応を含め、術前に必ず参考にしておく必要がある。また今回は下肢静脈の治療に対する大幅な改訂があり、特に肺塞栓、深部静脈血栓症などは最新の治療方法を知っておくべきである。

その他には各章に Tips & Tricks とされた、いわゆる熟練術者の豆知識が記載されている。症例数がそれほど多くない術者は、日常遭遇するさまざまな疑問点、治療のテクニックが記載されているため、ぜひ参考にされたい。

横井宏佳先生の編纂された本書はわが国の末梢血管治療の最前線を示しており、血管治療に携わるすべての医師が参考にすべきマニュアルと考えられる。